

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成18年5月(2006年)No.485

余部撮影会に19名の多数が申し込み —近年にない大撮影会になるか—

来る6月3日(土)、4日(日)の恒例のOMC一泊撮影会は、本年度は兵庫県北部鳥取県境に近い余部をテーマに取り上げました。余部鉄橋は、かつての列車落下事故で知られるようになりましたが、老朽化が進み近くコンクリートの橋に架けかえられるそうで準備工事が始まりました。

美しい鉄橋の構造美も恐らく今年が最後の撮影の機会かも知れません。

そういう前宣伝が効いたのか、撮影会参加申込みを受け付けましたところ、4月例会で既に予定の15名の参加希望者があり、その後例会欠席者からも参加希望者を得てうれしい限りです。

今回は、関企画担当世話役と前田世話役とが何回も現地を訪ねて撮影場所のチェック、宿の手配、交通機関等を調べて計画を立てて頂き、お世話かけました。ありがとうございました。この上は当日、お天気に恵まれますよう祈るばかりです。

■撮影会実施要項(案内書より抜粋)

期日：6月3日(土)4日(日)一泊二日、目的地：兵庫県香美町余部地区と香住地区、主なる撮影対象：余部鉄橋とその周辺、香住漁港の水揚げとせり市、遊覧船上からの香住海岸等、宿泊：香住地区「旅館 丸世井」
 TEL 0769-36-0028・参加費1万6千円(5月例会で会計へ納めて下さい)。
 日程：新大阪 9:04 発 特急「北近畿3号」→11:54 城崎温泉着⇒11:58 発 普通→12:48 余部着。

新大阪駅始発の後部2両の自由席にお乗り下さい。弁当忘れないように。雨天決行です。よろしく願います。良い撮影会になりますように…。

5月例会のお知らせ

5月例会は第4土曜日27日、午後6時より大阪市立難波市民学習センター(JR難波駅OCATビル4階)にて開催。余部撮影会参加予定者は新しい資料の配布や情報提供が予定されていますので、ぜひ例会にご出席ください。参加費納入もどうぞ。不参加の方も参加の方も月1回の楽しい集いにどうぞお越し下さい。作品の方もどしどし見せてください。

今年の「花と彫刻展」は 鞆公園にて5月28日迄

世界パラ会議大阪大会2006を前に、本町にあるうつぼ公園は昨秋から3月一杯にかけて一般人の立入りを禁止し、ホームレスのテント村も撤去して大改造工事をしていましたが、4月から開園しました。以前より綺麗になっています。

ここで、例年秋に行われていた「花と彫刻展」が今年は全国都市緑化おおさかフェアの一環として、5月8日から28日までの期間開催されています。

かつて2回ほどここでミニ撮影会を行い、勉強会を開いたこともありましたが、イメージチェンジした今年も「花と彫刻展」に挑戦してみたら如何ですか。

■ビデオコンテスト作品募集のお知らせ

東京アマチュア映像連盟では、映像祭の一環として作品募集しています。あなたもウデだめししてみませんか。

- ・応募〆切り 平成18年6月末日
- ・DV、VHS(S-VHSも可)
- ・上映時間 10分以内1人1作品
- ・テーマ 自由
- ・参加料 1,500円(作品返送希望の方は500円増)
- ・表彰 最優秀賞1名、優秀賞2名、入賞5名、入選若干名(入賞者には賞状、トロフィーを授与)
- ・発表式及び発表 平成18年8月第40回東京アマチュア映像祭において行う
- ・作品送り先及び応募用紙の請求
東京都新宿区高田馬場1-33-15 tantanman
ション館内 東京アマチュア映像連盟事
務局 〒169-0075 電話 03-3207-4581

撮影会の要領

餘部鉄橋は真下から見上げると実に壮大で圧倒されます。この巨大な鉄構造物を視野の狭いビデオ(特に4:3では)で表現することは困難です。被写体が大きいからといって、パンやティルトを多用すると見苦しいので、いかにして撮影し表現するかは皆さんの腕の発揮しどころだと思います。ワイドコンバーターをお持ちの方は持参されることをお勧めします。

事故当時の様子を語ってくれる元余部小

学校の校長先生(山崎平八さん)の快諾も得ました。インタビュー撮影場所は道路の横で狭いので、出席者19名が同時に撮ることは出来ませんので、HDV、DV-WIDE、4:3とそれぞれ代表を決めて撮影し、テープにダビングしてお渡しします。使用カメラを事前にお知らせください。その他撮影ポイント地図や時刻表等は例会日にお渡し同時に説明します。インタビュー撮影は午後2時を予定しています。現地到着後は、ご自由に撮影していただきますが、2時には指定の場所(余部派出所前)にご参集ください。

初のハイビジョン公開映写会 はまずまずの評価か

去る4月23日、大阪市立中央会館にて催されましたOVCビデオフェスティバル(有村代表)では、本邦初のハイビジョン上映が行われました。4対3の通常上映は実績も多く明るさも問題ありませんが、ハイビジョン上映は、家庭用のプロジェクターで、どこまで大画面で明るく上映できるか、テストケースとして注目されました。

前半の通常の4対3作品上映で休憩が入り、後半はじめはワイド作品でしたが、これも過去に上映実績があり心配ありませんでした。ハイビジョンに移ると、さすがにワイドに較べシャープな画面で美しい映像にほっとしました。が、HC1カメラで暗い夜間撮影の場面では、やはり暗すぎて見劣りがしました。暗さに強いカメラの出現とアマチュア用の明るいプロジェクターが待ち遠しいところです。

4月例会のレポート

4月例会は22日午後6時よりいつもの例会場にて開催されました。このところ長らく欠席されていた那須さんがお元気な姿を見せられほっといたしました。季節も春たけなわ、良い季節です。今月は4対3作品が3本のみ、ワイドが3本、ハイビジョンが6本という、すっかり4対3の通常作品の影が薄くなってしまいました。今月の司会は、安居氏、書記、岡本氏、デッキ係、増池、河合、江村の各氏、受付兼照明係は奥、森口の各氏で会を進行させました。

■出席者：有村、岩井、江村、岡本、奥、

上総、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、那須、西村、秦、華岡、前田、増池、松本、森口、森、森下、森田、安居、吉岡、渡辺の26氏（敬称略）。

■上映作品（今月の講評は岡本世話役です）

1. 鞆ノ浦

紙本 勝さん 11分30秒

広島県福山市鞆ノ浦（とものうら）に行かれた紀行作品。ここは瀬戸内海のほぼ中央に位置し、古くから潮待ち、風待ちの港として繁栄した港町です。カメラは古い民家が立ち並ぶ風情ある港町からはいってきます。丘の上に立つ、弘法大師の開基と伝わる医王寺、その境内から眺める鞆ノ浦に浮かぶ弁天島や仙酔島を映し出しています。仙人が酔うほどに景色が美しいと名付けられたその仙酔島に船で渡られた作者、そこに出迎えてくれたのは、野生のタヌキの群れ。そのタヌキのなんともいえない表情が印象に残った作品でした。

2. 日本遺産・永平寺

吉岡貞夫さん 7分25秒

永平寺は、今から約750年前に道元禅師によって開創された寺であるという解説から始まっています。約10万坪にも及ぶ広大な境内には樹齢約700年といわれる老杉や、七堂伽藍、在庫院など解説しながら映し出されていきます。まさに永平寺の案内版といった作品に構成されています。

なかなかうまく纏まっていますが、当日があいにくの雨だった為、屋内撮影が多く暗さが気になるところです。やはり照明が必要ですね。また、画面の中に同じカットのオーバーラップが2、3カ所でてきますがここはもう少し工夫された方がよいと思います。少し気になりました。

3. 乱舞～紀州弁慶よさこいおどり～

岡本至弘さん 14分30秒

「勸進帳」「船弁慶」など、歌舞伎や人形浄瑠璃などでよく知られている武蔵坊弁慶。この人物が紀州田辺生まれだとする説がもっとも有力とされています。そこで田辺市では毎年「弁慶祭り」が開催されています。第19回弁慶祭り取材中の夜の舞台撮影を中心にまとめてみました。

舞台撮影の為、アップが撮れないのと、

観客が多い為場所が移動できないので迫力のないものになってしまったのと時間が長くなってしまいました。背景が変わらないのが迫力のなさ、時間を半分にといい意見をいただきました。

4. 熊野三山 (W)

渡辺雄史さん 6分30秒

紀伊山地の霊場と参詣道が2004年に世界遺産に登録されました。その中の熊野三山に絞って纏められた作品。いわゆる、「熊野本宮大社」「熊野速玉大社」「熊野那智大社」を総称して熊野三山とよばれています。その三社をそれぞれ解説をしながら構成されていますが、最初の導入部に全体像の解説からはいってほしかったです。例えば、紀伊山地の南東部にあり、相互に20Km～40Kmの距離を隔てて位置する・・・というような。でもよく調べられてまとめておられました。熊野を愛する私にとって興味深く拝見させていただきました。

5. 神戸ポートアイランド (W)

増池 茂 8分50秒

この作品、上映前に作者は3月末で閉園になるので撮影に行ったといわれました。おそらく、ご覧になる大方の皆さんは私を含めて閉園をテーマにした作品と思ってご覧になったと思います。ところが上映が終わった後、司会者が閉園の説明がなかったです。と尋ねたところ、「閉園は考えずに撮った」と作者が答えられました。そうなんですよねえ、この作品「遊園地」のタイトルだけでも良い申し分ないりっぱな作品に仕上がっていますが司会者のいわれる通りでした。しかしながら、欲をいけばせかくの「閉園」というテーマで港神戸の、「さよなら神戸ポートアイランド」というタイトルで、「閉園」という看板やいつもは少ない入園者なのに今日だけはざらり待ち並んだ入園者のインタビューなどをいれられた作品にしてほしかったです。

6. 三島池のかたらい (W)

進藤 信男さん 11分20秒

この作品前月例会に「三島池とともに」というタイトルで発表されたものを講評をもとに再制作されたもの。題名の再考されたらというという意見に上記のタイトルにされました。私は「三島池と水鳥たち」と

か「三島池の四季」といったタイトルの方がよいような気がします。いずれにしても大変よくなりました。三島池の四季折々の情景を丹念に撮影されました。

7. 河畔のさくら (HDV)

奥 宏 7分05秒

今年の4月に大阪市桜ノ宮大川周辺の桜を二日間にわたって撮影されたもの。二日目は黄砂の影響で映像が曇ってみえます。それでもさすがHDVですね。桜のアップなどの精細感がよく出ていますね。しかしながらBGMだけで7分見せようとする少し間延びがします。もう少し締められたら締まると思います。船からの映像も1カットほしいですね。それとBGMは日本調の曲の方があうのではないのでしょうか。

8. 嵯峨野点描 (HDV)

有村 博 9分30秒

作者はHDVカメラのHC1を購入されて、前作の「金剛山頂回遊記」に続く2作目のテスト撮影だそうです。

HC1は露出がマニュアルにならないのでシャッター速度を1/60にして明るさレバーで調整しながら撮影したとか。フォーカスもピントがあまかったりカメラになれるのに苦労したということです。

嵯峨野周辺を撮影されたものですがあまり違和感を感じませんでした。最後の愛宕念仏寺はかつての関作品の「合唱」を彷彿させられました。

9. 餘部鉄橋 (HDV)

前田茂夫さん 10分48秒

餘部鉄橋は明治45年に山陰本線トレスル橋として開通しました。今日まで風雪にたえてきたこの鉄橋もいよいよコンクリート橋に建て替えられることになり、わがクラブで鉄橋の見納めに撮影会をしようとなりました。そこで作者は下見を兼ねた映像を含めて制作された作品を参考作品として持ってこられました。19年前に起きた列車転覆事故や鉄橋の歴史を折りまぜながら、土地の古老のインタビューなどをいれてすばらしい作品に仕上がっています。

10. チェンマイで寺巡り2 (HDV)

森田光春さん 8分30秒

この作品は前回に続く2作目。堀と城壁に囲まれた市街地に300を越す寺院があ

り、700年あまりの長きにわたる歴史を伝える古都では由緒ある寺院巡りを撮影されたもの。チェンマイで最も格式の高い寺院、ワット・プラ・シンやこれと並ぶ格式高い、ワット・チェディ・ルアンなどカラフルな仏堂が映し出されています。最初はナレで説明されていますが、ほとんどがテロップでながされています。テロップが少し長いので、ここはナレで通された方がよかつたかなと思いました。それにしても現地の古典音楽のBGMにのせて楽しい映像を拝見させていただきました。

11. 冬余部 (HDV)

江村一郎 6分00秒

前出の前田作品に続く冬に絞って纏められた江村作品。鉄橋は餘部、土地の方は餘部とも書くらしい。(読み方は同じ) 日本海の打ち寄せる荒波、風雪の餘部鉄橋を走る列車、そこに暮らす人々の情景と心地よいBGMとのコラボレーションが、江村流の筋書きのない映像詩に感動を覚えます。

12. エベレストに魅せられて (HDV)

黒田敏彦さん 18分00秒

朝日に輝くエベレストを見たい、その思いで奥さんを伴ってネパールへ。カトマンズから飛行機をチャーターして標高3800mのサンボジェの丘へ向かった。ところが突然山の気候が豹変、霧で視界が遮られ、機体は無事着陸できるのか、映像にくぎづけされました。パイロットの試行錯誤で霧の合間を抜けて、場所を変更してルクラへの無事着陸にほっとしました。

ルクラに一泊の後、再びサンボジェの丘へ。そこで見る冠雪のエベレストの美しさを拝見しました。朝焼けのエベレストには遭遇できなくてカトマンズを後にされたという作品。超大作といっても余りあるすばらしい作品を拝見しました。

欲をいえば、制作者はご本人、ところがナレーションがご本人以外の第三者の立ち場の表現になっているところに違和感を感じました。出来れば、制作者ご本人の表現でナレーションを入れ直された作品をもう一度拝見したいものです。

以上で映写を終え、いつものように喫茶組と飲酒組とに別れて二次会を楽しみました。